

2025年度(2026年3月期) 中間決算 説明資料

成田国際空港株式会社
2025年11月27日



中間決算のポイント及び通期業績予想について	3
I . 2025年度 中間連結決算及び通期連結業績予想	4
✈ 航空取扱量実績／中間連結決算概要／2025年度 航空取扱量見通し／2025年度 通期連結業績予想	
II . 2025年度中間期 セグメント情報	9
✈ セグメント別損益の状況	
III . その他の情報	13
✈ 航空機発着回数・航空旅客数推移／連結決算推移／連結貸借対照表の概要／連結キャッシュ・フローの概要／ 長期債務残高と平均金利の推移／債務償還の見通し／【単体】中間決算・業績予想	

中間決算のポイント及び通期業績予想について

2025年度 中間決算

- ✦ 航空取扱量は、発着回数、旅客数とも前年同期を上回り好調に推移。旅客数は**2019年度以来6期ぶりに2,000万人を超え、特に、外国人旅客数は1,159万人となり、年度上期として過去最高となりました。**
- ✦ 航空取扱量の増加等に伴い、**営業収益は5期連続の「増収」となり、上期としては民営化以降の最高値を更新しました。**一方で、営業費用の増加や特別損失の発生などにより中間純利益は「減益」となりました。

2025年度 通期業績予想

- ✦ 上期における航空取扱量及び連結業績ともに概ね当初想定通りに推移していることから、**前回発表の航空取扱量見通し及び連結業績予想から変更はありません。**なお、実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

【参考】前回発表時での想定

25年度連結業績予想： 航空取扱量見通しは、発着回数及び旅客数ともに2024年度を上回る想定であるものの、労務単価や諸物価の高騰の影響に加え、需要増への対応、安全を最優先に老朽化した施設の修繕・更新等のコスト増加により「増収減益」となると予想。

I. 中間連結決算及び通期連結業績予想

- ➔ 航空旅客需要はコロナ禍を経て、回復から成長ステージへ移行しており、発着回数は前年同期比104.2%、旅客数は同104.4%と好調に推移しました。
- ➔ 総発着回数のうち国際線は、アジア、北米路線を中心とした旅客便の新規就航や増便があったことから、前年同期を上回りました。
- ➔ 一方、国内線の発着回数は、機材や運航人員の不足等による昨年冬期スケジュールからの減便が継続している影響により、前年同期を下回りました。
- ➔ 旅客数については、2019年度以来6期ぶりに2,000万人を超え、特に、外国人旅客数は1,159万人となり、年度上期として過去最高となりました。日本人旅客数も確実に増加しており、今後も成長を見込んでおります。
- ➔ 国際航空貨物量については、2024年4月以降、前年同月比を18カ月連続で上回り、好調に推移しています。

	中間期(4月1日～9月30日)			
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
航空機発着回数 (万回)	12.2	12.7	0.5	104.2%
国際線	9.5	10.2	0.7	107.8%
国内線	2.6	2.4	△ 0.2	91.3%
航空旅客数 (万人)	1,992	2,080	87	104.4%
国際線	1,601	1,715	113	107.1%
日本人	395	447	52	113.3%
外国人	1,079	1,159	80	107.4%
通過客	127	108	△ 18	85.3%
国内線	390	364	△ 26	93.3%
国際航空貨物量 (万t)	97	102	4	104.3%
給油量 (万 kl)	164	174	10	106.2%

【参考】 2019年度比
94.1%
96.6%
84.6%
92.0%
92.1%
59.8%
126.0%
56.2%
91.4%
100.2%
76.4%

中間連結決算概要 … 前年同期から増収減益

- ➔ 営業収益は、国際線においてアジア、北米路線を中心とした旅客便の新規就航や増便もあり好調に推移した結果、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、物販・飲食収入を中心に増収となり、前年同期から81億円増の1,358億円と5期連続の増収、上期としては民営化以降の最高値を更新しました。
- ➔ 一方、営業費用は、人件費の増加、需要増加に対応した施設運営や老朽化した施設の修繕・更新等による費用の増加もあり、前年同期から84億円増の1,132億円となりました。
- ➔ 以上により、営業利益は前年同期並みの225億円、親会社株主に帰属する中間純利益は、更なる機能強化事業の進捗に伴う固定資産除却損等の発生により前年同期比37億円減の158億円となりました。

(単位:億円)	中間期(4月1日～9月30日)			
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益 (外部顧客への売上高)	1,276	1,358	81	106.4%
空港運営事業	516	563	47	109.2%
リテール事業	598	614	15	102.6%
施設貸付事業	147	156	9	106.3%
鉄 道 事 業	14	24	9	161.9%
営業費用	1,047	1,132	84	108.1%
営業利益	228	225	△3	98.6%
空港運営事業	△30	△45	△14	-
リテール事業	196	202	5	102.9%
施設貸付事業	59	54	△4	92.4%
鉄 道 事 業	3	13	10	369.2%
経常利益	220	214	△5	97.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	195	158	△37	81.0%

【参考】 2019年度比
107.1%
98.0%
118.2%
98.7%
162.4%
116.2%
76.9%
-
140.1%
71.5%
412.5%
75.4%
85.9%

2025年度 航空取扱量見通し

2025年5月29日発表の航空取扱量見通しから変更なし

- 今期の航空取扱量見通しは、発着回数及び旅客数ともに 前期を上回ると想定しています。
- 国際線は、アジア路線を中心とする増便が見込まれることから、前期を上回る想定です。
- 国内線は、旅客需要は底堅いものの、24年度冬ダイヤにおいて生じた減便が通期化する影響から、前期をやや下回る想定です。
- なお、記載の見通しは、足元までの動向が概ね期初の計画通りに推移していることから、期初の見通しから変更はありません。

	2024年度 実績 (A)	2025年度 見通し (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
航空機発着回数 (万回)	24.5	25.5	0.9	103.9%	98.6%
国際線	19.5	20.8	1.2	106.3%	102.6%
国内線	4.9	4.7	△0.2	94.3%	84.2%
航空旅客数 (万人)	4,077	4,290	212	105.2%	103.4%
国際線	3,337	3,600	262	107.9%	105.8%
国内線	739	690	△49	93.3%	92.5%
国際航空貨物量 (万t)	196	202	5	102.6%	98.8%
給油量 (万 kl)	339	360	20	106.1%	81.6%

2025年度 通期連結業績予想 …増収減益

2025年5月29日発表の連結業績予想から変更なし

- ➔ 営業収益は、国際線発着回数および国際線旅客数において前年度を上回る見込みであり、空港使用料収入、旅客施設使用料収入を中心に増収となり、前期比124億円増収の2,762億円となる見通しです。
- ➔ 一方、営業費用は、前期比263億円増加の2,478億円となる見通しです。増加の主な要因としては、需要増への対応、および安全を最優先に老朽化施設の修繕・更新等を進めていくことからコストの増加を想定しています。
- ➔ 以上により、営業利益は前期比139億円減益の283億円、当期純利益は前期比214億円減益の137億円となる見通しです。
- ➔ なお、実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

(単位:億円)	2024年度 実績 (A)	2025年度 予想 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 (外部顧客への売上高)	2,637	2,762	124	104.7%	116.5%
空港運営事業	1,072	1,156	83	107.7%	106.2%
リテール事業	1,235	1,239	3	100.3%	130.9%
施設貸付事業	299	318	18	106.3%	103.6%
鉄 道 事 業	29	48	18	160.3%	161.0%
営業費用	2,214	2,478	263	111.9%	126.2%
営業利益	422	283	△139	66.9%	69.6%
空港運営事業	△91	△236	△144	-	-
リテール事業	405	394	△11	97.1%	161.1%
施設貸付事業	103	104	0	100.5%	78.7%
鉄 道 事 業	6	26	19	392.8%	423.1%
経常利益	404	241	△163	59.6%	61.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	351	137	△214	39.0%	56.3%

Ⅱ. セグメント情報

- ➔ 営業収益は、国際線においてアジア、北米路線を中心とした旅客便の新規就航や増便もあり好調に推移した結果、前年同期比47億円の増収の563億円となりました。
- ➔ 営業費用は、人件費や物価上昇に伴う施設維持管理コストの増加により、前年同期比71億円の増加となりました。
- ➔ 結果、営業損失は、前年同期比14億円増加し、45億円となりました。

(単位:億円)	中間期(4月1日～9月30日)			
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益 (外部顧客への売上高)	516	563	47	109.2%
空港使用料収入	171	181	10	106.1%
旅客施設使用料収入	213	238	24	111.5%
給油施設使用料収入	60	67	6	110.4%
その他収入	70	76	6	108.5%
営業費用	580	651	71	112.3%
営業利益	△30	△45	△14	-
(営業利益率)	-	-		

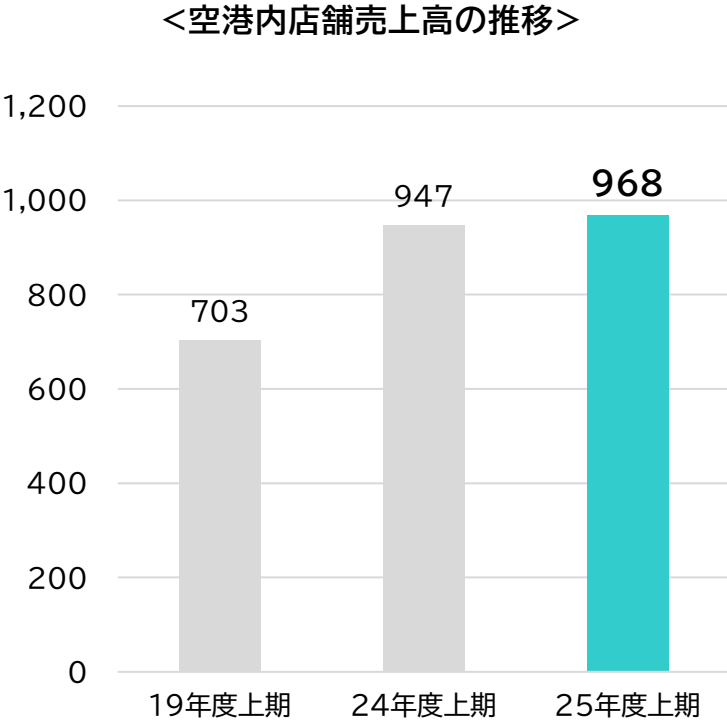
【参考】 2019年度比
98.0%
86.4%
109.9%
84.0%
112.2%
118.9%
-

注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

- ➔ 営業収益は、国際線旅客数が前年同期を上回ったことに加え、新たな需要創出を目的とした新規出店が売上に寄与し、物販・飲食収入、構内営業料収入が増収となり、前年同期比15億円増収の614億円となりました。
- ➔ 営業費用は、人件費等の増加により、前年同期比11億円の増加となりました。
- ➔ 結果、営業利益は、前年同期比5億円増益の202億円となりました。

(単位:億円)	中間期(4月1日～9月30日)			
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益 (外部顧客への売上高)	598	614	15	102.6%
物販・飲食収入	459	463	4	100.9%
構内営業料収入	62	66	3	105.1%
その他収入	75	84	8	110.9%
営業費用	406	417	11	102.8%
営業利益	196	202	5	102.9%
(営業利益率)	32.6%	32.6%		

【参考】 2019年度比
118.2%
113.5%
110.8%
165.2%
110.3%
140.1%



「空港内店舗売上高」は、成田空港内の非直営店(テナント)を含む飲食・物販の店頭売上を集計したものであり、損益計算書上の営業収益とは異なります。

注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

施設貸付事業

- ➔ 営業収益は、第8貨物ビル供用開始(2024年10月)等により、前年同期比9億円の増収となりました。
- ➔ 営業費用は、人件費や物価上昇に伴う施設維持管理コストの増加により、前年同期比14億円増加となりました。
- ➔ 結果、営業利益は、前年同期比4億円減益の54億円となりました。

	中間期(4月1日～9月30日)			
(単位:億円)	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益(外部顧客への売上高)	147	156	9	106.3%
営業費用	95	110	14	115.3%
営業利益	59	54	△4	92.4%
(営業利益率)	38.3%	33.2%		

【参考】 2019年度比
98.7%
124.7%
71.5%

注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

鉄道事業

- ➔ 営業収益は、成田高速鉄道アクセス線の線路使用料改定により、前年同期比9億円の増収となりました。
- ➔ 結果、営業利益は、前年同期比10億円増益の13億円となりました。

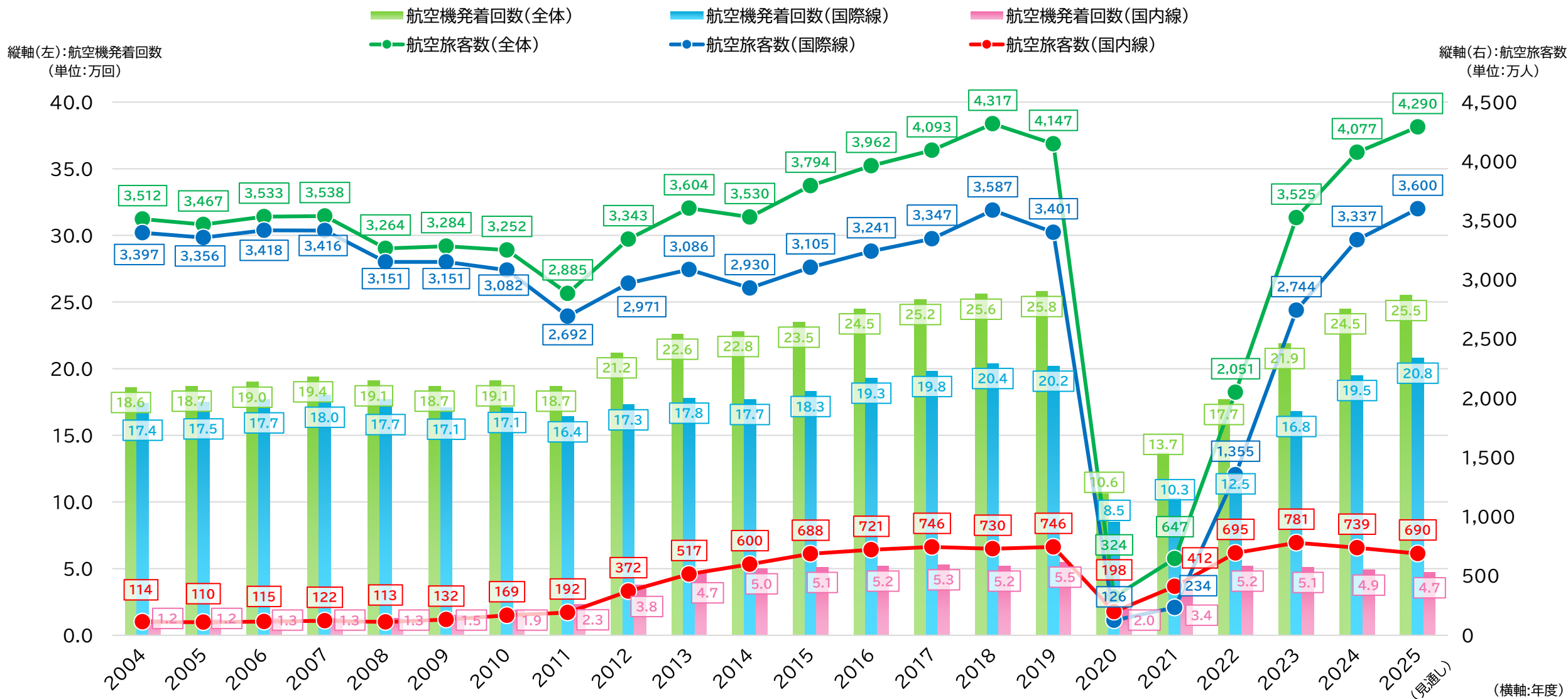
	中間期(4月1日～9月30日)			
(単位:億円)	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益(外部顧客への売上高)	14	24	9	161.9%
営業費用	11	10	△0	92.6%
営業利益	3	13	10	369.2%
(営業利益率)	24.8%	56.7%		

【参考】 2019年度比
162.4%
89.5%
412.5%

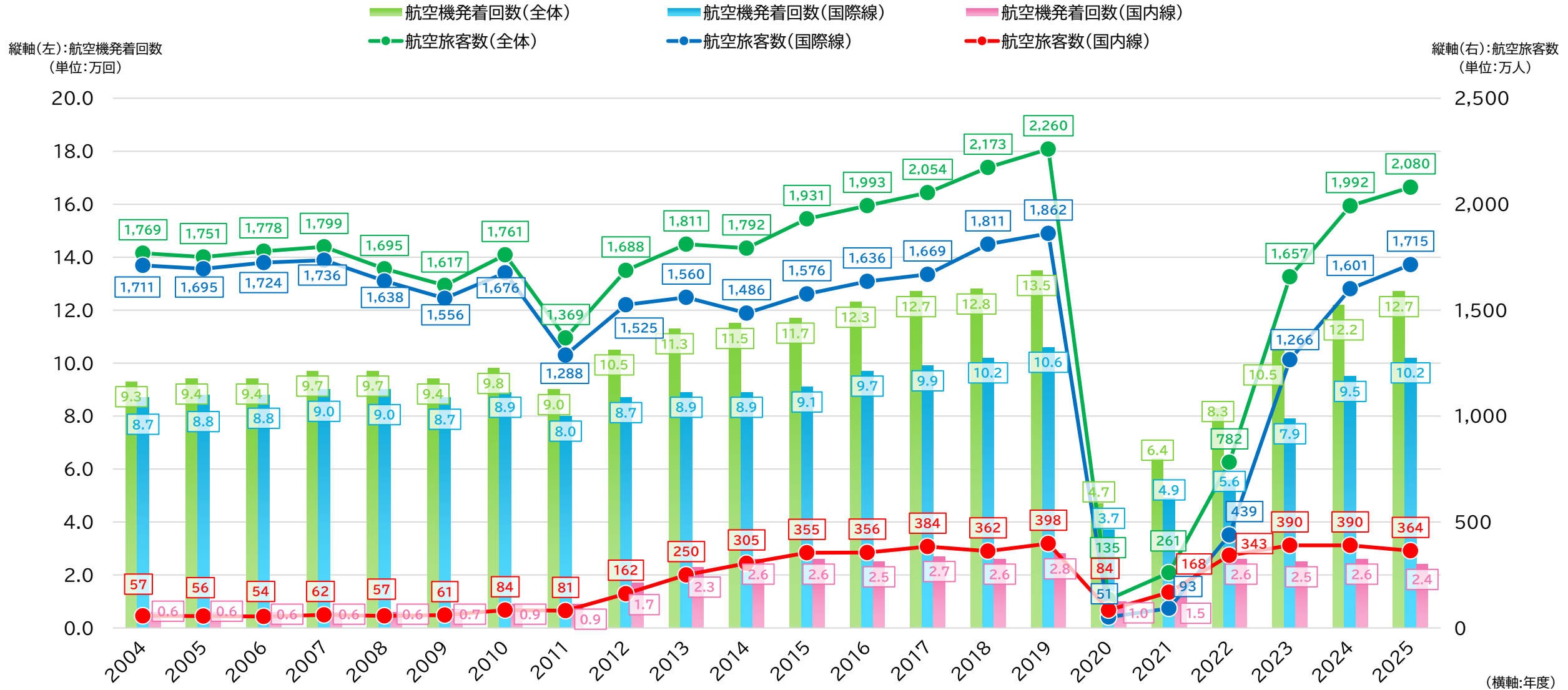
注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

Ⅲ. その他の情報

【通期】航空機発着回数・航空旅客数推移(民営化以降)



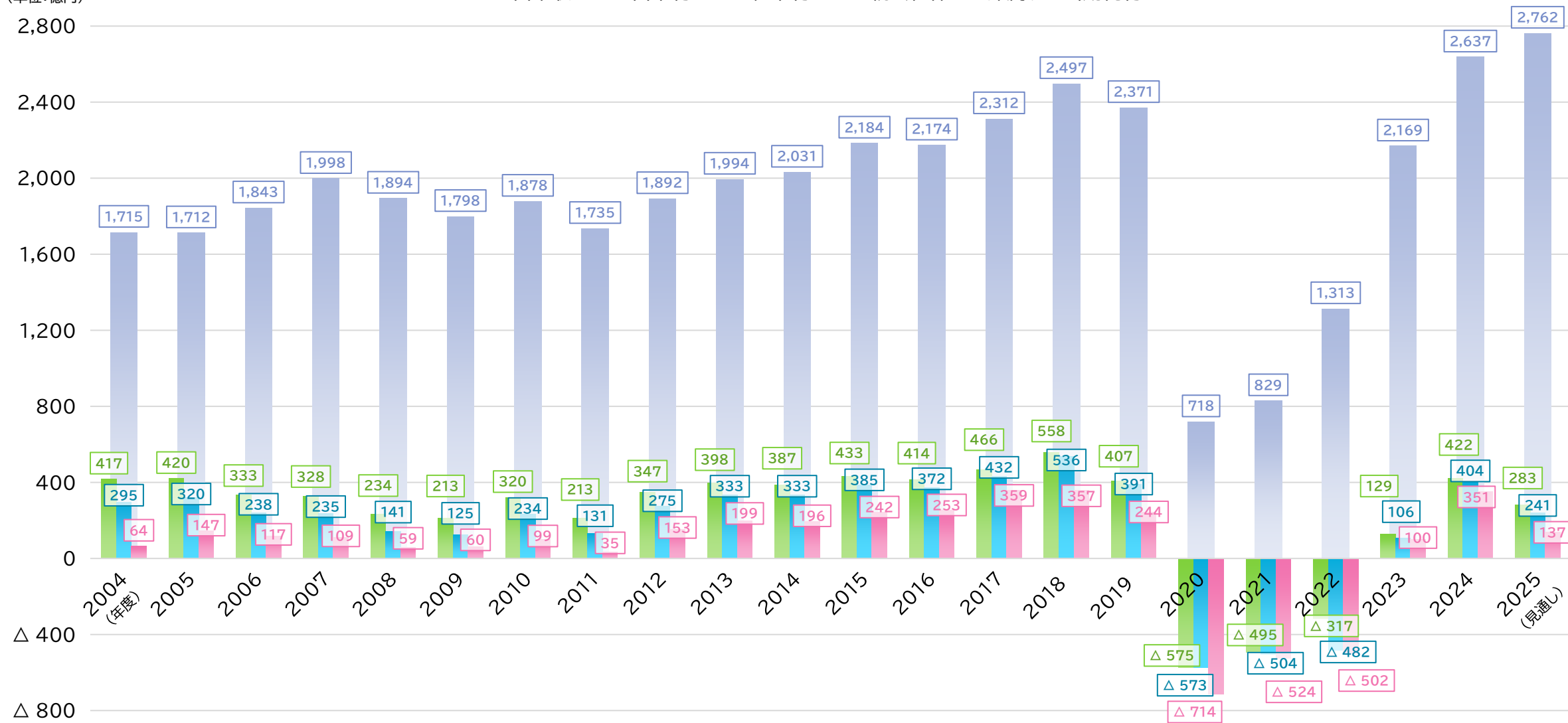
【中間期】航空機発着回数・航空旅客数推移(民営化以降)



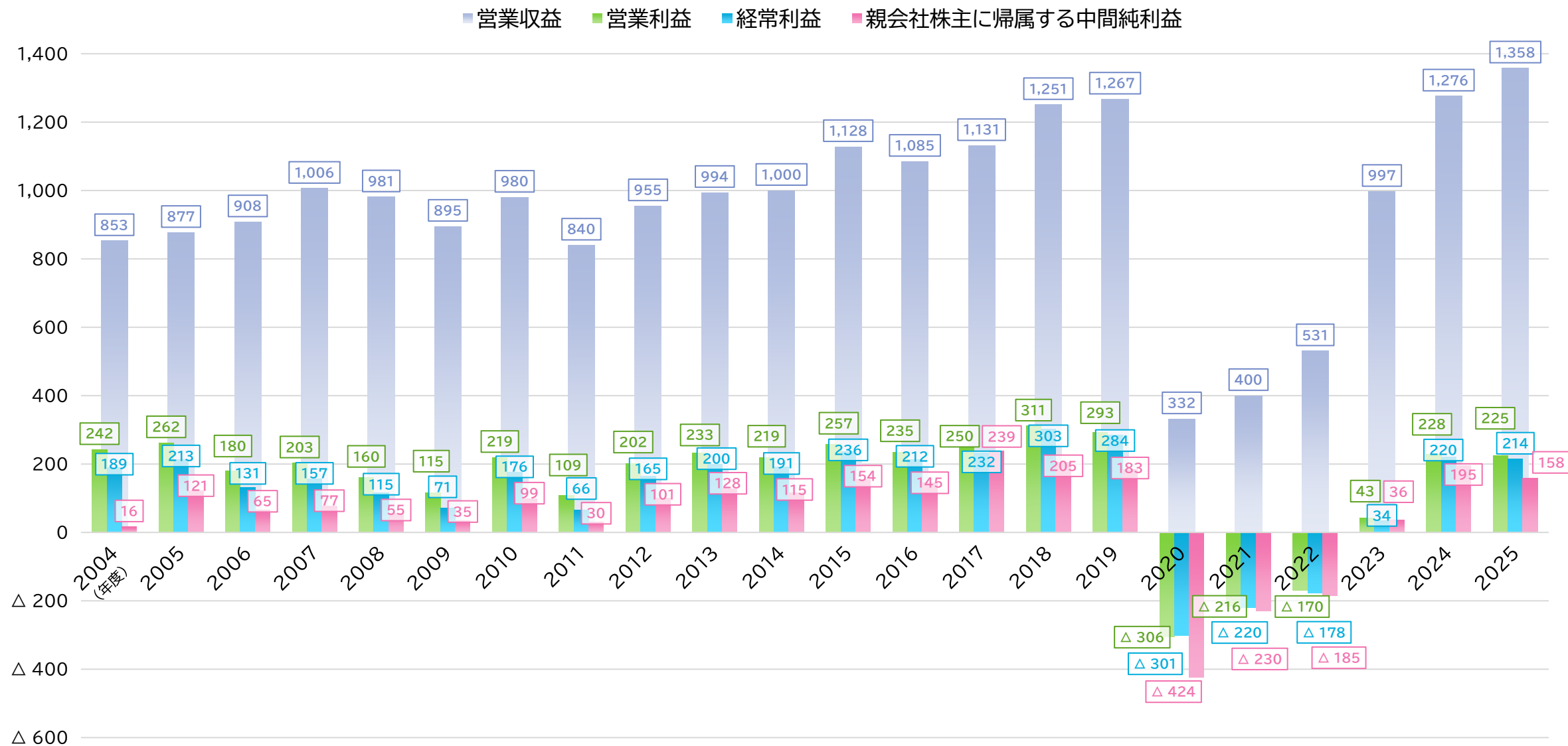
【通期】連結決算推移(民営化以降)

(単位:億円)

営業収益 営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益



【中間期】連結決算推移(民営化以降)



連結貸借対照表の概要

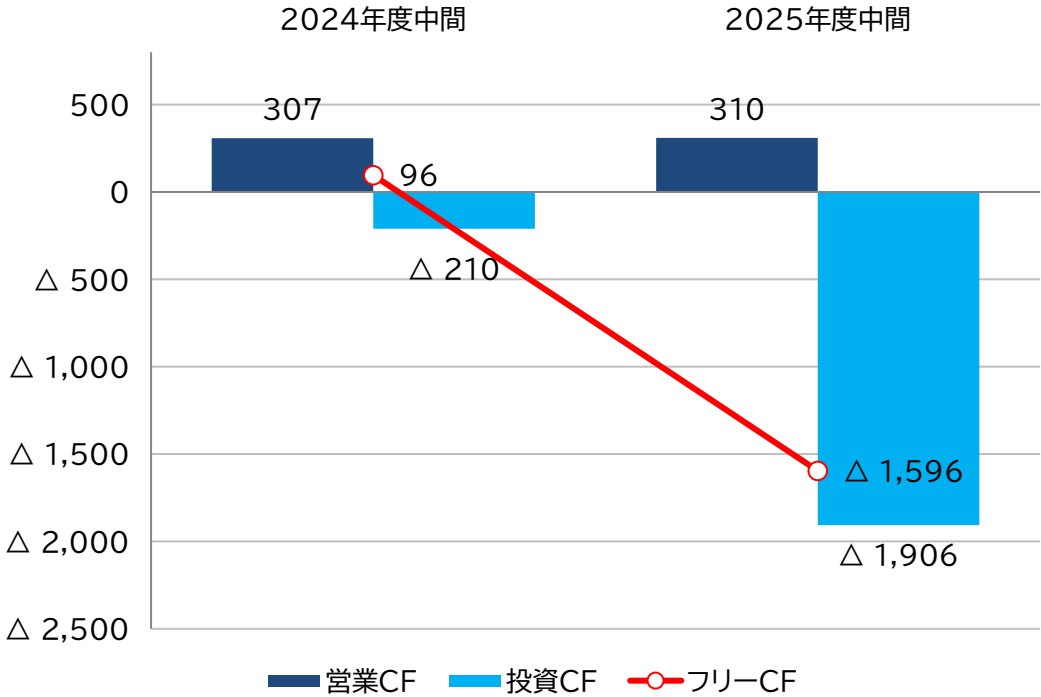
- ➔ 資産合計は、固定資産の取得等により前期末比2.1%増の1兆4,410億円となりました。
- ➔ 負債合計は、社債の増等により前期末比1.7%増の1兆1,504億円となりました。
- ➔ 純資産合計は、前期末比3.7%増の2,905億円となりました。自己資本比率は、前期末19.3%から0.3ポイント改善し19.6%となりました。

(単位:億円)	2024年度 期末 (A)	2025年度 中間期末 (B)	増減 (B)－(A)	% B/A×100
流動資産	4,741	4,632	△109	97.7
固定資産	9,367	9,778	411	104.4
有形固定資産	9,070	9,467	396	104.4
無形固定資産	96	85	△ 11	88.4
投資その他の資産	199	225	25	112.8
資産合計	14,109	14,410	301	102.1
流動負債	1,132	1,083	△49	95.7
固定負債	10,173	10,420	247	102.4
負債合計	11,306	11,504	197	101.7
純資産合計	2,802	2,905	103	103.7
負債・純資産合計	14,109	14,410	301	102.1

連結キャッシュ・フローの概要

- ➔ 営業CFは、税金等調整前中間純利益が減少したものの、現金支出を伴わない費用の増加等により、キャッシュ・インは前年同期並みの310億円となりました。
- ➔ 投資CFは、固定資産の取得による支出の増加や譲渡性預金の預け入れによる支出等により、キャッシュ・アウトは前年同期比1,695億円増の1,906億円となりました。
- ➔ 財務CFは、社債の発行による収入等により、キャッシュ・インは前年同期比127億円増の219億円となりました。

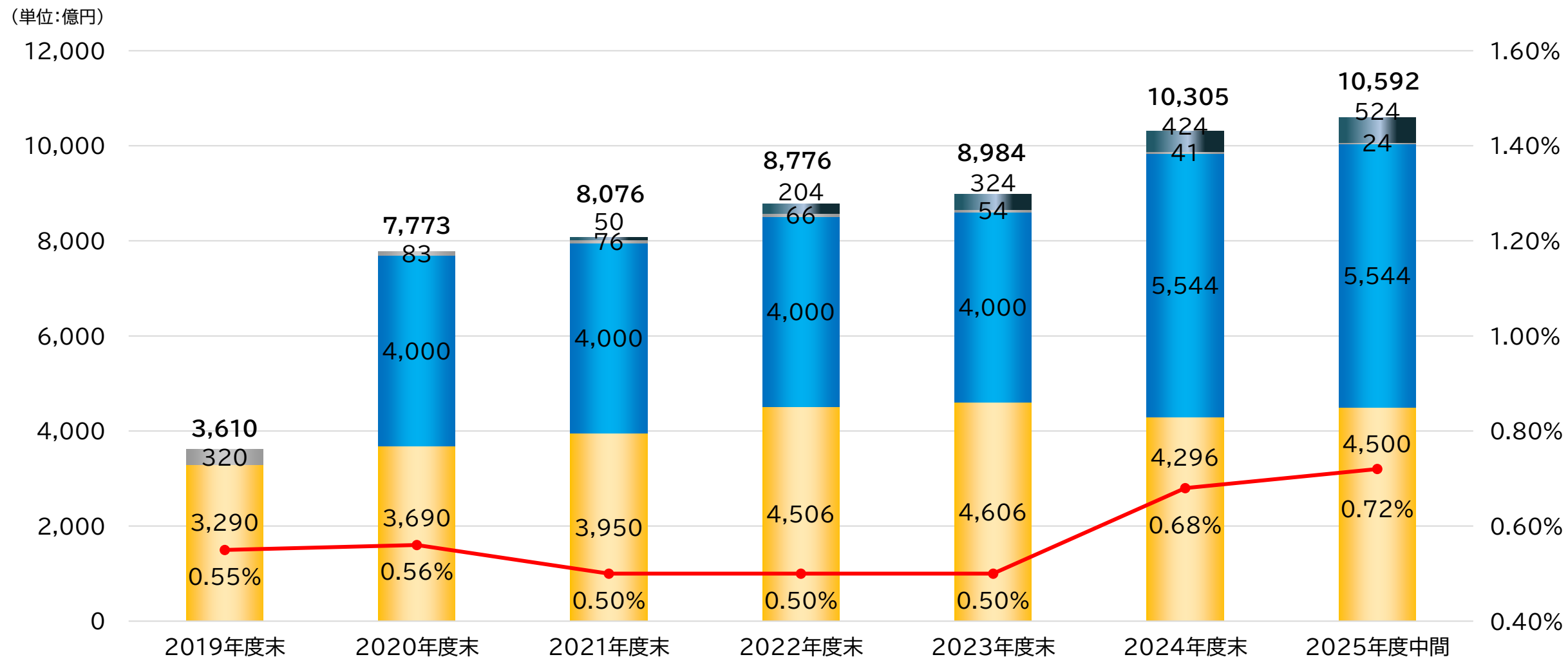
(単位:億円)	2024年度 中間期 (A)	2025年度 中間期 (B)	増減 (B)-(A)
営業キャッシュ・フロー	307	310	3
投資キャッシュ・フロー	△ 210	△ 1,906	△ 1,695
固定資産の取得による支出	△ 506	△ 612	△ 106
譲渡性預金の預入による支出	△ 2,100	△ 4,434	△ 2,334
譲渡性預金の払戻による収入	400	3,144	2,744
定期預金の払戻による収入	1,991	—	△ 1,991
その他	3	△ 4	△ 7
フリー・キャッシュ・フロー	96	△ 1,596	△ 1,692
財務キャッシュ・フロー	92	219	127
現金及び現金同等物の 中間期末残高	1,062	1,412	350



※預入期間が3か月を超える譲渡性預金・定期預金の預入・払戻は、連結キャッシュ・フロー計算書の作成ルールに基づき投資キャッシュ・フローに含めて表示しております

長期債務残高と平均金利の推移(連結)

2025年9月30日時点

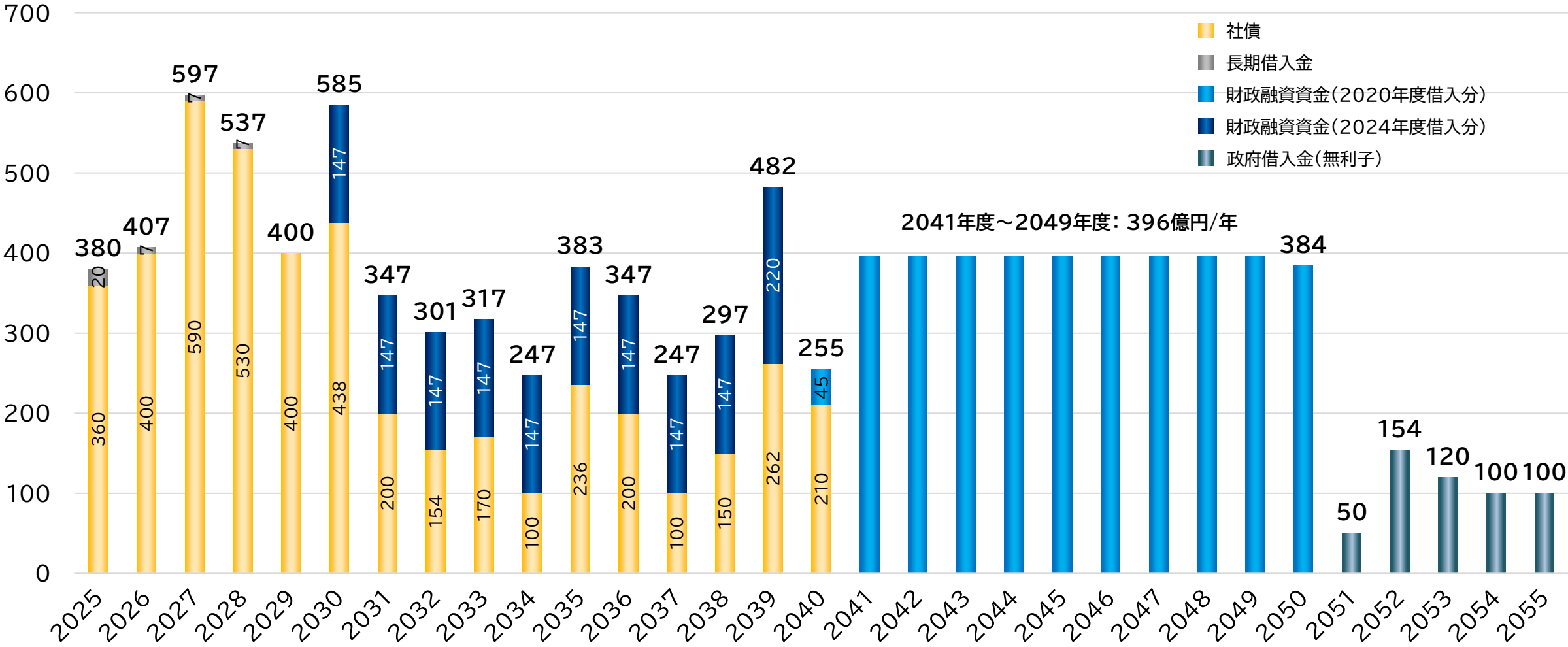


※ 平均金利の算出にあたっては、無利子借入金を除く。

債務償還の見通し(連結)

(単位:億円)

2025年9月30日時点



※ 債券に関する償還額は、額面金額を記載。
※ 財政融資資金(2020年度借入分)は総額4,000億円、返済方法は20年据置、以降10年元本均等返済。
※ 財政融資資金(2024年度借入分)は総額1,544億円、返済方法は5年据置、以降10年元本均等返済
※ 政府借入金(無利子)は満期一括償還で償還期限は30年。

【単体】中間決算・業績予想

<単体中間実績>

(単位:億円)	中間期(4月1日～9月30日)			
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益	821	890	68	108.3
営業費用	666	750	83	112.6
営業利益	155	140	△15	90.0
経常利益	136	116	△19	85.4
中間純利益	122	92	△29	75.8

【参考】
2019年度比

101.3%
118.3%
57.4%
49.7%
61.4%

<通期単体業績予想>

2025年5月29日発表の通期業績予想から変更なし

(単位:億円)	2024年度 実績 (A)	2025年度 予想 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100
営業収益	1,697	1,820	122	107.2
営業費用	1,427	1,676	248	117.4
営業利益	270	143	△127	52.9
経常利益	231	87	△144	37.5
当期純利益	215	41	△174	19.0

【参考】
2019年度比

109.7%
125.3%
44.6%
28.9%
21.9%

実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。